

転河

中国

Zhuanhe River



転河は、北京の北部を流れる都市河川です。観光地であるサマーパレスに流れこんでいます。

転河は洪水防御や北京城外堀への導水を目的として人工的に開削された河川でしたが、1975年から1982年の間に都市開発によって埋め立てられました。



整備前

その跡地には工場や多くの住宅が建設され、人々がやすらげるような緑地や水辺のオープンスペースはなくなってしまいました。

その後、経済の発展にともない、人々は良好な生活環境を求めようになり、洪水の防止や河川の文化的な景観、水質の改善、生態系の保全と再生など、水辺空間に対して多様な要望を寄せるようになりました。

転河における河川整備は、2008年の北京オリンピックの開催を控え、北京の都市河川について初めて重点的に取り組まれた総合治水事業です。

2002年、転河が持つ本来の歴史的な姿を復元するための河川整備事業が開始されました。大きな特徴はこれまでと全く



その後、経済の発展にともない、人々は良好な生活環境を求めようになり、洪水の防止や河川の文化的な景観、水質の改善、生態系の保全と再生な



復元された転河

異なる北京市の治水思想であり、都市河川整備における「人を本位とし、自然になじむ形をとり、人とふれあいを求め、自然と調和共存する」という理念のもとで事業が進められた点があげられます。洪水防御や排水整備といった目標に加えて、人と水環境が調和のとれた存続を実現するための景観や生態系保全などの観点が新たに追加されました。この整備事業は、1年半で完成し、延長3.7kmが再整備されました。



現在の転河

地元の歴史と都市生活を有機的に融合させる河川の機能を満たすことを前提に、河川沿いには、歴史文化園、積み石水景、水辺回廊、親水場所、緑の水路の6箇所の景観スポットが創出されました。北京の伝統的水路は直線ですが、自然な蛇行が設けられ景観形成のための計画とデザインが採用されました。堤防保護や侵食防止のためには、自然石や多孔質で透過性の素材が使用され、水際には植物が植えられました。

水門、13の橋梁、2つの船着場が整備され、観光のための遊覧船が運行されるようになりました。遼王朝時代(916～1125年)につくられた歴史ある橋も復元されています。

水門、13の橋梁、2つの船着場が整備され、観光のための遊覧船が運行されるようになりました。遼王朝時代(916～1125年)につくられた歴史ある橋も復元されています。

再生後、生物多様性は著しく改善され、魚やカエル、他の生物も戻ってきました。転河は大都市の中の豊かな自然をもつ美しい景観として、人々の憩いとやすらぎの空間として、多くの住民に親しまれています。



釣りを楽しむ人々